

# ゆとりある空間・ぬくもりを感じる病院



## 大崎市民病院本院建設事業者が決定

新しい大崎市民病院本院の建設について、このほど、病院本体とエネルギーセンターの施工事業者が決定しました。今後、実施設計を本年中に完了させ、平成二十四年より建設工事が始まり、平成二十五年中に竣工し、平成二十六年一月に開院の予定となります。今回は、最優秀者に選定された提案の概要についてお知らせいたします。

問 病院建設課 ☎ 3311

### 着実に動き始めた病院建設事業

大崎市民病院本院の病院本体とエネルギーセンターの建設は、設計と施工を一括して発注する「デザイン・ビルド方式」が採用されています。業者選定は、発注者（市民病院）が業者の参加を募り、技術提案書などの提出を求め、提出された技術提案書などをともに審査をする「公募型プロポーザル」によって行われました。

この公募に対して、病院本

体には九つの共同企業体、エネルギーセンターには二つの専門事業者から応募がありました。そして、昨年十二月中旬に審査委員会を開催して、業者選定のための聞き取り調査を行いました。

審査は「基本設計書」を基に事業者から示された提案を、全体事業費の縮減化や工期短縮、開院後の運営等、経営的な視点で評価し、総合評価の順位を付け、最も優れた業者を「最優秀者」に選びました。

今回、テーマ別技術提案を

### 最優秀者

- 本院建設事業  
戸田建設・久米設計 特定建設工事共同企業体
- エネルギーサービス事業  
ENAC・大建設計・銭高組グループ

行ったことにより「基本設計書」の課題や「日本一の自治体病院をつくる有識者懇談会」での「全体的に快適さを醸し出すゆとりの空間が不足している」等の意見・提言を踏まえた、新たな提案を受けたことで、より理想に近づけることができました。

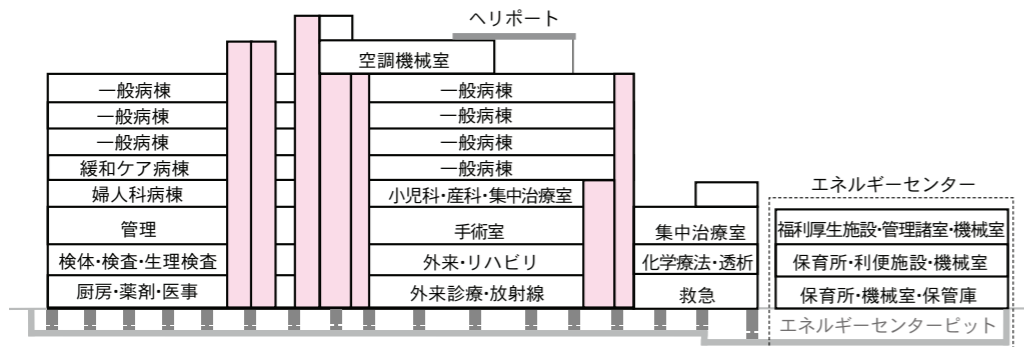
引き続き、利用しやすく働きやすい病院、そして、経営的にも健全な「日本一の自治体病院」を目指して、最新医療機器の整備計画や移転計画などソフト面での検討を具体的に進めます。

### ふれあいの拠点 ほなみモール

採用になった提案で、最も目を引くのは、新しい市民病院の顔となる「ほなみモール」の新設です。

病院を訪れる人のふれあいの拠点となり、駐輪場やバス停、歩行者用入り口からすぐに来院者を迎え入れることができます。

さらに、カフェ、図書コーナー、待ち合いなど、建物の快適さを生むゆとりの空間としての機能を補完し、外来の共用スペースにゆとりがもてる提案です。



▲病院1・2階南側に設けられた「ほなみモール」明るく広々とした空間では、市民ギャラリー、ミニコンサートなどの催しも行える空間が広がります。災害発生時には、負傷者を収容するスペースにもなります。

### 同じ予算で床面積を広くできました

建設事業費の縮減を図ったことで、同じ予算内で基本設計と比べ約三千平方メートルの床面積を拡大しました。

これにより病棟部門では約千三百平方メートルの面積増となり、病室が拡大、室内の足元廻りにゆとりが生まれました。このため、療養環境が向上し、医療機器などの取り回しも改善されます。

### 明るく広々とした 吹き抜け空間を創出

低層部の柱の間隔を一部広



▲吹き抜けのあるホール  
受付カウンターの位置を工夫するなどして、待合スペースを十分に確保することができました。

### 利便施設が備わった エネルギーセンター

市民病院に隣接するエネルギーセンターでは、電気およびガスに加え、太陽エネルギーやバイオマスといった再生可能エネルギーを利用して、冷暖房や温水、蒸気などを病院に供給します。

エネルギーセンターは三階建て、延床面積三千五百二十平方メートル、電気・機械室のほかに、院内保育所、看護実習室、コンビニ、レストラ

ンなどの施設が入ります。

PC工業化工法は、工場で生産される部材を使用するため、現場での大幅な工期短

### 事業期間を短縮 開院時期も早まりました

PC（プレキャスト）工業化工法の採用により、着工から竣工までが十九カ月となり、基本設計書と比べ、全体事業スケジュールで四カ月の事業期間短縮となっています。